

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-78308

(P2000-78308A)

(43) 公開日 平成12年3月14日 (2000.3.14)

| (51) Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | キーワード* (参考) |
|---------------------------|-------|---------------|-------------------|
| H 0 4 M 11/00 | 3 0 3 | H 0 4 M 11/00 | 3 0 3 5 B 0 8 9 |
| G 0 6 F 13/00 | 3 5 1 | G 0 6 F 13/00 | 3 5 1 G 5 K 0 3 0 |
| H 0 4 L 12/54 | | H 0 4 L 11/20 | 1 0 1 B 5 K 1 0 1 |
| 12/58 | | | |

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-246450

(22) 出願日 平成10年9月1日 (1998.9.1)

(71) 出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市長区瑞穂区苗代町15番1号

(72) 発明者 伊崎 健

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー工業株式会社内

(74) 代理人 100104514

弁理士 森 泰比古

Fターム(参考) 5B089 GA26 JA31 KA01 KC29 LA13

5K030 GA16 HA06 HB15 JT01 LD13

5K101 KK01 KK02 KK06 NN12 NN18

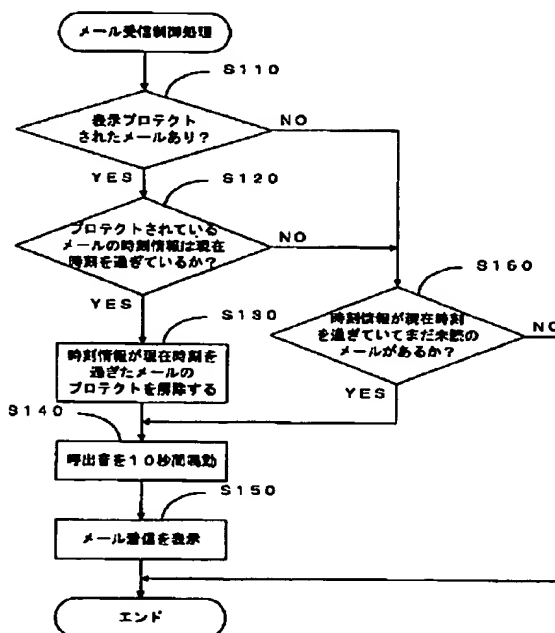
QQ18

(54) 【発明の名称】 メール送受信機能付き電話通信システム

(57) 【要約】

【課題】 メール送受信機能付き電話通信システムにおいて、予めメールを送信しておいて、所望の時刻になったときに相手側にメールを読ませる様にする。

【解決手段】 メールを送信する際に、読み出し時刻を指定すると共に、当該時刻になるまでは受信者側でのメール表示をプロテクトした状態でメールを送信する。そして、この様なメールの送受信を行う場合に使用するメールボックスを特定のメールボックスとしておく。受信者側では、この特定のメールボックスに表示プロテクトされているメールがある場合には、当該メールに付属されている読み出し時刻情報が現在時刻を過ぎているかを判断し、時刻情報が現在時刻を過ぎているメールの表示プロテクトを解除すると共に、呼出ベルを10秒間鳴動させてメールの着信を報知し、LCDにメール着信を表示する (S110~S150)。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に送信する時刻設定付きメール送信手段と、前記メールを受信した場合に、前記読み出し時刻設定手段によって設定されている読み出し時刻になったときに初めて、前記メールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えていることを特徴とするメール送受信機能付き電話通信システム。

【請求項2】 電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に送信する時刻設定付きメール送信手段と、該時刻設定付きメール送信手段によって送信されてきたメールを受信する時刻設定付きメール受信手段と、該時刻設定付きメール受信手段の受信内容をチェックし、前記読み出し時刻設定手段によって設定されている読み出し時刻になったときに初めて、当該メールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えていることを特徴とするメール送受信機能付き電話通信システム。

【請求項3】 電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に受信者側の特定のメールボックスへと送信する特定メールボックス送信手段と、前記特定のメールボックス内に受信情報があるか否かを判断する特定メールボックス受信情報判断手段と、該特定メールボックス受信情報判断手段により、受信情報があると判断された場合は、当該受信情報に設定されている時刻になったか否かを判断する読み出し時刻判断手段と、該読み出し時刻判断手段によって、前記受信情報に設定されている時刻になったと判断されたとき、前記特定のメールボックスへのメールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えていることを特徴とするメール送受信機能付き電話通信システム。

【請求項4】 請求項1～請求項3のいずれか記載のメール送受信機能付き電話通信システムにおいて、

前記メール読み出し時刻設定手段によって読み出し時刻を設定されたメールに対して、当該読み出し時刻が到来するまで受信者側において読み出せない様に表示プロテクトを行う表示プロテクト手段を備えていることを特徴とするメール送受信機能付き電話通信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電話通信システムに係り、特に、電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】最近、音声ではなく、短いメッセージを電子メールの様な文字情報として相手先と送受信するメール送受信機能を持った電話通信システムが、例えばDDI（第二電電株式会社）から「α5（DDIの提供する情報通信サービスの名称。以下、同じ。）」システムとして提案され、「アルファメール（α5におけるメール送受信サービスの名称。以下、同じ。）」として一部の電話機で実用化がなされている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のメール送受信機能付き電話通信システムでは、メールを相手先に送信すると、相手先の電話機では直ちに呼出音が鳴動され、メールの実際の着信時にその旨を報知する構成となっている。このため、早めにメールを送信して待ち合わせ等の約束をしておくと、受信者側でメールの内容を忘れてしまい、待ち合わせがうまくできない場合があるという問題がある。

【0004】このような問題を回避する方法として、待ち合わせ時刻等をメールで連絡する場合には、待ち合わせ時刻が近くなってから相手先へメールを送信する対策が考えられるが、送信者にとっては適切な時刻を待ってメールを送信しなければならず、逆にメールの出し忘れ等の問題を生じるおそれもある。

【0005】そこで、本発明は、メール送受信機能付き電話通信システムにおいて、予めメールを送信しておいて、所望の時刻になったときに相手側にメールを読ませることができる様にすることを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するためになされた請求項1のメール送受信機能付き電話通信システムは、電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に送信する時刻設定付きメール送信手段と、前記メールを受信した場合に、前記読み出し時刻設定手段によって設

定されている読み出し時刻になったときに初めて、前記メールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えている。

【0007】この請求項1のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、メールを送信する際に、メール読み出し時刻設定手段によってメールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定する。そして、時刻設定付きメール送信手段を作動させて、このメール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に送信する。すると、このメールを受信した受信者側では、メール着信報知手段が、読み出し時刻設定手段によって設定されている読み出し時刻になったときに初めて、メールの着信を報知する。従って、この請求項1のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、受信者にメールを読んで欲しい時刻を設定して予めメールを送信しておけば、受信者側では当該時刻が到来したときにメールの着信が報知され、設定した時刻にメールを読み出す様にさせることができる。この結果、待ち合わせ等の連絡のために早めにメールを送っておくことができ、送信者側ではメールの送り忘れが防止でき、受信者側ではメールを適切な時刻に読むことで、待ち合わせの約束を忘れしうといった事態を防止することができる。

【0008】同じく上記目的を達成するためになされた請求項2のメール送受信機能付き電話通信システムは、電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に送信する時刻設定付きメール送信手段と、該時刻設定付きメール送信手段によって送信されてきたメールを受信する時刻設定付きメール受信手段と、該時刻設定付きメール受信手段の受信内容をチェックし、前記読み出し時刻設定手段によって設定されている読み出し時刻になったときに初めて、当該メールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えている。

【0009】この請求項2のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、読み出し時刻設定手段によってメールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定し、時刻設定付きメール送信手段により、こうして設定された読み出し時刻をメールと共に送信する。受信者側では、時刻設定付きメール受信手段が、読み出し時刻が設定された状態で送信されてきたメールを受信する。そして、メール着信報知手段が、時刻設定付きメール受信手段の受信内容をチェックし、読み出し時刻設定手段によって設定されている読み出し時刻になったときに初めて、当該メールの着信を報知する。従って、この請求項2のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、

ば、請求項1のメール送受信機能付き電話通信システムと同様の作用・効果が発揮される。

【0010】同じく上記目的を達成するためになされた請求項3のメール送受信機能付き電話通信システムは、電話機間で、文字情報からなるメッセージをメールとして送受信する機能を備えているメール送受信機能付き電話通信システムであって、前記メールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定するメール読み出し時刻設定手段と、該メール読み出し時刻設定手段によって設定された読み出し時刻を前記メールと共に受信者側の特定のメールボックスへと送信する特定メールボックス送信手段と、前記特定のメールボックス内に受信情報があるか否かを判断する特定メールボックス受信情報判断手段と、該特定メールボックス受信情報判断手段により、受信情報があると判断された場合は、当該受信情報に設定されている時刻になったか否かを判断する読み出し時刻判断手段と、該読み出し時刻判断手段によって、前記受信情報に設定されている時刻になったと判断されたとき、前記特定のメールボックスへのメールの着信を報知するメール着信報知手段とを備えている。

【0011】この請求項3のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、送信者は、メール読み出し時刻設定手段によってメールの読み出しを受信者側に知らせる時刻を任意に設定し、特定メールボックス送信手段を作動させて当該メールを設定された読み出し時刻と共に受信者側の特定のメールボックスへと送信する。受信者側では、特定メールボックス受信情報判断手段により、特定のメールボックス内に受信情報があるか否かを判断する。そして、特定メールボックス受信情報判断手段により、特定のメールボックス内に受信情報があると判断された場合は、読み出し時刻判断手段が、当該受信情報に設定されている時刻になったか否かを判断する。そして、読み出し時刻判断手段によって、特定のメールボックス内に存在する受信情報に設定されている時刻になったと判断されたとき、メール着信報知手段が、特定のメールボックスへのメールの着信を報知する。この結果、この請求項3のメール送受信機能付き電話システムにおいても、請求項1及び請求項2のメール送受信機能付き電話システムと同様の作用・効果が発揮される。

【0012】また、請求項4のメール送受信機能付き電話通信システムは、請求項1～請求項3のいずれか記載のメール送受信機能付き電話通信システムにおいて、前記メール読み出し時刻設定手段によって読み出し時刻を設定されたメールに対して、当該読み出し時刻が到来するまで受信者側において読み出せない様に表示プロテクトを行う表示プロテクト手段を備えている。

【0013】この請求項4のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、読み出し時刻を設定されたメールは、表示プロテクト手段によって受信者側において読み出そうとしても読み出し時刻が到来するまでは読み出

することができない様になっている。この結果、折角、読み出し時刻を設定して送信したメールが受信者側において早く読み出されてしまうといった事態を防止することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】次に、本発明の一実施の形態を図面に従って説明する。本実施の形態は、図1(A)に示す様に電話回線と外線接続された親機10と、図1

(B)に示す様に無線回線で親機と通信を行う子機50とからなるコードレス親子電話機に関するものである。このコードレス親子電話機は、DDIがα5として提案する機能に対応したものであり、通信の相手先との間で文字情報としてのメッセージをメールとして送受信する機能を有するものである。

【0015】親機10は、留守番電話機能、ファクシミリ通信機能、コピー機能等を備えた多機能型電話機として構成されている。親機10は、主要な構成要素として、制御の中枢を司るコントローラ11、操作パネル13、液晶ディスプレイ(LCD)15、呼出ベル17、スキャナ19、プリンタ21、符号/復号器23、モデム25、回線制御回路(NCU)27、ハンドセット29、スピーカ31、マイク33、無線通信制御回路35、アンテナ37及び切換器39を備えている。

【0016】コントローラ11は、CPU、ROM、RAM、EEPROM、タイマ等を備える論理演算回路であり、そのCPUにより、音声応答制御や後述するメール送信制御及びメール受信制御等の各種制御処理を実行する。なお、CPUが実行する各種制御処理用のプログラムや制御処理に必要なデータ等は予めROMに記憶されている。また、RAMは各種制御処理においてワークエリアやバッファとして使用される。特に、このRAMには、0番〜9番の10個のメールボックスが確保されており、各メールボックスには文字情報からなるメッセージをメールとして受信し記憶することができる様になっている。さらに、EEPROMは電話帳登録等の情報を記憶しておくために設けられている。加えて、タイマは音声応答制御における音声の継続時間を計時したり、後述するメール読み出し時刻の報知を行うための計時を行うなどの処理に使用される。

【0017】操作パネル13は、外部との通信のために電話番号やファクシミリ番号の入力等に使用するテンキーや、親機10の備えているファクシミリ機能等を実行する上でモードを切り換えるためのファンクションキー、電話帳登録等の際に押下する確定キー等を備えている。LCD15は、ファクシミリ送信機能を起動させたりする際の機能選択用の表示を行ったり、ナンバーディスプレイサービスに対応した発呼者の電話番号を表示したり、受信したメールを読み出して表示したり、各種メッセージの表示等を行うためのものである。呼出ベル17は、外線から着信があったときに呼出ベルを鳴動させ

るためのものである。なお、この呼出ベル17は、着信呼出時に1秒間鳴動、2秒間停止を繰り返し着信を報知する。スキャナ19は、この親機10によりファクシミリ送信を行ったりコピーを行ったりする場合に原稿を読み取るために設けられている。プリンタ21は、外部から受信したファクシミリデータを記録紙に印字出力したり、あるいは、スキャナ19で読み取った原稿の画像データを記録紙に印字出力するコピー機能を実行するために備えられている。符号/復号器23は、ファクシミリ送信に当たってスキャナ19で読み取った画像データをG3圧縮形式等のファクシミリ送信用のデータ形式に符号化したり、逆にファクシミリ受信した圧縮形式の画像データをプリンタ出力可能な形式のデータに復号化するために設けられている。

【0018】モデム25及びNCU27は、電話回線を介して外部との通話やファクシミリ送受信を行うために備えられている。また、本実施の形態においては、モデム25は、外線からの着信呼出時に音声応答により回線接続を行うためのDSPとしても機能し得る様に人の音声に対応する所定範囲の周波数帯域の音声を抽出する処理等を行うことができる様に構成されている。

【0019】ハンドセット29は、外線を通じて電話をかける際や、外線からの着信呼出時にオフフック操作することにより、電話回線を介して通話を行うものである。また、スピーカ31は、ハンズフリー状態での会話(以下、「ハンズフリーストーク」という。)を行う際に、相手の音声を出力するために設けられている。さらに、マイク33は、ハンズフリーストークの際に利用者の音声を検出して相手先に送信したり、着信呼出時にハンズフリーストークを開始するための音声応答を検出するために設けられている。また、無線通信制御回路35は、アンテナ37を介して親機10と子機50との間で無線通信を行うために設けられている。さらに、切換器39は、モデム25に対してマイク33からの音声入力とアンテナ37で受信した子機50からの音声入力のいずれかを切換入力するためのものである。

【0020】子機50は、主要な構成要素として、制御の中枢を司るコントローラ51、操作パネル53、LCD55、呼出ベル57、スピーカ61、マイク63、無線通信制御回路65及びアンテナ67を備えている。

【0021】コントローラ51は、CPU、ROM、RAM、EEPROM等を備える論理演算回路であり、そのCPUにより、各種制御処理を実行する。なお、CPUが実行する各種制御処理用のプログラムや制御処理に必要なデータ等は予めROMに記憶されている。また、RAMは各種制御処理においてワークエリアやバッファとして使用される。さらに、EEPROMは電話帳登録等の情報を記憶しておくために設けられている。

【0022】また、LCD55は、ナンバーディスプレイサービスに対応した発呼者の電話番号を表示したり、

10

20

30

40

50

各種メッセージの表示等を行うために設けられている。なお、呼出ベル57は、外線から着信があったときに呼出ベルを鳴動させるためのものである。この呼出ベル57は、着信呼出時に1秒間鳴動、2秒間停止を繰り返し着信を報知する。

【0023】スピーカ61は、外線との通話や親機10との内線通話などの際に、相手の音声を出力するために設けられている。また、マイク63は、逆に、外線通話や内線通話の際に子機50側の音声を検出して外線又は親機10へと伝達するために設けられている。なお、マイク63は、着信呼出時にハンズフリーストックを開始するための音声応答を検出する役割も持っている。また、無線通信制御回路65は、アンテナ67を介して子機50と親機10との間で無線通信を行うために設けられている。

【0024】次に、本実施の形態のコードレス親子電話機により実行されるメール送信制御処理の内容について、図2のフローチャートに従って説明する。

【0025】この処理においては、まず、送信すべきメールのメッセージを入力する処理を実行する(S10)。このメールは、例えば、テンキーを用いて、DTMF (Dual Tone Multi Frequency) 信号の入力方法に従い、仮名文字を1文字ずつ特定しながら作成される。そして、こうして入力されたメールをLCD15に仮名文字のメッセージとして表示すると共に(S20)、このメールに受信者側での読み出し時刻の設定を行うか否かを問い合わせるメッセージをLCD15に表示する(S30)。

【0026】そして、メール送信者による時刻設定を行うか否かの指定を待つ(S40)。ここで、時刻指定を行うと指定された場合には(S40: YES)、読み出し時刻の入力を促すメッセージをLCD15に表示すると共に(S50)、読み出し時刻の入力を待つ(S60)。そして、読み出し時刻が入力されると(S60: YES)、この読み出し時刻をメールの付加情報としてメールに付属させると共に(S70)、相手先の9番のメールボックスを受信用メールボックスに指定すると共に、読み出し時刻になるまではメールの表示を行わない様にするメール表示プロテクトを行った状態でメールの送信を実行する(S80)。ここで送信されるメールは、例えば、「〇〇:△△ ソロソロデカケタラドウデスカ?」といった具合に、「〇〇:△△」という時刻情報を「ソロソロデカケタラドウデスカ?」というメッセージに付属させた所定のフォーマットで送信される。

【0027】一方、時刻指定を行わないと指定された場合には(S40: NO)、S10で入力されたメールをそのまま相手先に送信する(S90)。なお、このとき、相手先のメールボックスとして特に指定がなければ、0番のメールボックスを宛先としてメールを送信する。また、メールボックスの指定がある場合には、当該

指定に従って、1番～9番のメールボックスの内の指定のメールボックスを宛先としてメールを送信する。

【0028】次に、本実施の形態のコードレス親子電話機により実行されるメール受信制御処理の内容について、図3のフローチャートに従って説明する。

【0029】この処理は、9番のメールボックスの受信情報を読み出すための処理であって、例えば1分間に1回コールされて繰り返し実行される様に構成されている。本処理では、まず最初に、9番のメールボックスに表示プロテクトされているメールがあるか否かを判断する(S110)。ここで、表示プロテクトされているメールがある場合には(S110: YES)、当該メールに付属されている読み出し時刻情報が現在時刻を過ぎているか否かを判断する(S120)。

【0030】表示プロテクトされているメールに付属している時刻情報が現在時刻を過ぎていると判断された場合には(S120: YES)、この時刻情報が現在時刻を過ぎているメールの表示プロテクトを解除する(S130)。そして、呼出ベル17を10秒間鳴動させてメールの着信を報知すると共に(S140)、メール着信があったことをLCD15に表示し(S150)、本処理を一旦終了する。これにより、9番のメールボックスに読み出し時刻の設定されているメールが着信しており、当該読み出し時刻になったことが外部に報知される。従って、この報知によってメールの着信を知った受信者は、9番のメールボックスからメールを読み出すことにより、送信者の設定した時刻にメールを読むことができる。

【0031】なお、表示プロテクトされたメールがないと判断された場合(S110: NO)、及び表示プロテクトされたメールがあるが未だ当該メールに付属されている時刻に至っていないと判断された場合は(S110: YES, S120: NO)、メールに付属されている時刻情報が現在時刻を過ぎているものの未読のメールがあるか否かを判断する(S160)。そして、未読のメールがあると判断された場合は(S160: YES)、S140以下の処理へ進み、未読のメールはないと判断された場合は(S160: NO)、そのまま本処理を一旦終了する。

【0032】以上説明した様に、本実施の形態によれば、メールを送信する場合に、受信者側で受信時に直ちにメールを読むのではなく、所望の時刻が到来したときにメールを読み出せる様に、表示プロテクトをかけた状態でメールを送信することができる。そして、このようなメールは9番のメールボックスを宛先として送信されて来るので、受信者側では、9番のメールボックスを所定時間毎にチェックし、表示プロテクトされているメールを受信している場合には、当該メールに付属されている時刻情報に従って、当該時刻が到来したときに表示プロテクトを解除してメールの着信を報知する構成となつて

いる。

【0033】従って、送信者側では、例えば待ち合わせ等の約束をメールで行う場合に、前もって待ち合わせのためのメッセージを作成すると共に受信者側での読み出し時刻を指定して予め送信しておけばよく、最適な時刻になったときに受信者にメールを読ませるに当たって当該メールの送信時期を考慮する必要がない。この結果、メールの送信忘れを防止することができる。一方、受信者側では、この様なメールを受け取った場合、当該メールに付属されている時刻情報に従って、当該時刻が到来したときに初めてメールの着信を知り、これを読み出すことができる。この結果、早めにメールを送っておい

たにも拘わらず、最適な時刻において受信者にメッセージを伝達することができ、待ち合わせ等の約束において行き違いがなくなるという効果が発揮される。また、表示プロテクトをかけてメールを送信することにより、折角、読み出し時刻の指定を行ったメールが受信者側において早く読み出されてしまうといった事態を防止することができる。

【0034】以上、本発明の一実施の形態について説明したが、本発明はこの実施の形態に限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲内においてさらに種々の形態を採用することができることはもちろんである。

【0035】例えば、上述の様なメール送信制御は、親機10からの操作によっても子機50からの操作によってもいずれからも実行できる様にしておくとい

【0036】

【発明の効果】以上説明した様に、請求項1～請求項3

のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、予めメールを送信しておいて、所望の時刻になったときに相手側にメールを読ませることができる。この結果、受信者にある時刻になったときにメールを読んで欲しいという場合に、メールを予め送信しておけるので送信者側でのメール送信忘れといった不具合を防止することができる。また、受信者側には最適な時刻にメールを読ませることができ、待ち合わせ等の約束をメールで行う場合に、行き違いが発生することを防止することができる。

【0037】特に、請求項3のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、この様なメールの送受信を、特定のメールボックスに対して実行するので、受信者側では、この特定のメールボックスの受信情報をチェックする処理を実行するだけでよく、上述の様な効果を発揮する上での制御処理が簡単になるという効果が発揮される。

【0038】また、請求項4のメール送受信機能付き電話通信システムによれば、表示プロテクトをかけてメールを送信することにより、折角、読み出し時刻の指定を行ったメールが受信者側において早く読み出されてしまうといった事態を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 実施の形態のコードレス親子電話機の概略構成を示すブロック図であって、(A)は親機のブロック図、(B)は子機のブロック図である。

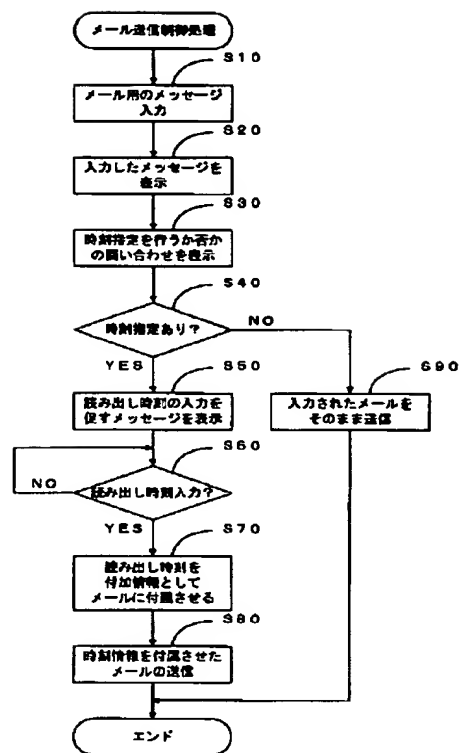
【図2】 実施の形態におけるメール送信制御処理の内容を示すフローチャートである。

【図3】 実施の形態におけるメール受信制御処理の内容を示すフローチャートである。

【符号の説明】

10・・・親機、11・・・コントローラ、13・・・操作パネル、15・・・LCD、17・・・呼出ベル、50・・・子機、51・・・コントローラ、53・・・操作パネル、55・・・LCD、57・・・呼出ベル。

【圖2】



【圖3】

